

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立中央小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 121人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語，数学及び英語。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，国語及び算数・数学においては，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。英語においては，選択式，短答式及び記述式の問題に加え，「話すこと」に関する問題の解答は，原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・中央値や平均正答率は全国とほぼ変わらないが、グラフのピークが上位層と中位層の二つに分かれて現れている。

平均正答率（本校 63／泉佐野市 59／大阪府 60／全国 63.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【書くこと】 ○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。</p> <p>1二 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する (57.9/63.4)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことは、概ねできている。</p> <p>1四(1)イ 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の_____部イを、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず) (84.3/69.4)</p>	<p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。</p> <p>1四(2) 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の[]の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す (36.4/47.8)</p> <p>【読むこと】 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。</p> <p>2一(2) 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の[イ]に、<u>疑問に思ったこと</u>の②に対する答えになるように考えて書く (68.6/75.9)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(37) 国語の勉強は好きですか	50.4	64.2	○	13.8
(38) 国語の勉強は大切だと思いますか	91.7	93.0		1.3
(39) 国語の授業の内容はよく分かりますか	85.1	84.9		0.2
(40) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.0	91.2		1.2
(41) 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	79.4	76.9		2.5
(42) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	79.3	78.1		1.2
(43) 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	57.8	68.5	○	10.7

(44) 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	66.1	71.4	◇	5.3
(45) 今回の国語の問題について解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	97.5	97.8		0.3
(57) 解答時間は十分でしたか	67.7	74.2	◇	6.5

- 「国語の勉強は好きですか」という質問では、全国が64.2%であるのに対し、本校は50.4%となっている。国語に対する苦手意識があるようである。国語への興味や関心を高められるような取り組みをさらに行っていくことが必要である。
- 「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」という質問では、全国が68.5%であるのに対し、本校は57.8%である。相手に考えを伝えるときに、伝わりやすい工夫を考えられていない児童が多いようである。伝わりやすさを考えて、話したり書いたりすることができるように、考えを書く際に、必ず理由をつけて書く等の取り組みを取り入れていきたい。
- 「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」という質問では、全国が71.4%であるのに対し、本校は66.1%と、5%の差があった。現段階では、単に文章をはじめから読んでしまっている状態である児童がいることが考えられる。その為、文章を読みながら、ポイントを抑えられるように、接続詞の確認などを丁寧に行っていくなどの取り組みを行いたい。
- 「解答時間は十分でしたか」という質問では、全国が74.2%であるのに対し、本校は67.7%であった。解答時間が足りないと言うことは、文章を読むスピードがゆっくりであったり、理解するのに時間がかかってしまったりしているということが考えられる。従って、長い文章に慣れ親しんだり、スピードを速めて読むことができるようにしたりしていくことが必要である。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあり、正答数のピークは、全国平均よりも1ポイント高いところにある。しかし、その全体像はなだらかなカーブを描くものではなく、中間層辺りに少し歪な部分が見てとれる。

平均正答率（本校 67／泉佐野市 65／大阪府 66／全国 66.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述することに課題がある。 3（2）減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかをかく。 (23.1/31.1)</p> <p>【量と測定】 ○示された図形の面積の求め方解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。 1（3）減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く。 (40.5/43.9)</p>	<p>【図形】 ○図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することに課題がある。 1（2）二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり裏返したりして、同じ長さの辺どうし合わせてできる図形を選ぶ。 (49.6/60.3)</p> <p>【数量関係】 ○棒グラフから一方の量がもう一方の何倍かを読み取ることが概ねできている。 2（2）2010年の水道の使用量が1980年の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。 (85.1/78.6)</p> <p>○除法の式の意味の理解ができている。 3（4）$1800 \div 6$は何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ (52.1/47.0)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(46) 算数の勉強は好きですか	71.9	68.6		3.3
(47) 算数の勉強は大切だと思いますか	96.7	93.7		3
(48) 算数の授業の内容はよく分かりますか	90.1	83.5	◇	6.6
(49) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	92.5		0.1
(50) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	75.2	76.5		1.3
(51) 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	79.4	79.1		0.3
(52) 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	79.4	82		2.1
(53) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	80.2	82.1		1.9

(54) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	81.8	84		2.2
(55) 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	84.3	87		2.7
(56) 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	95.9	98.3		2.4
(58) 解答時間は十分でしたか	85.1	84		

○「算数が好き」と回答した児童の割合は、昨年度と比較して10.3ポイント上昇し、全国平均と比較してもその数値を上回ることができた。今後も「できる」「わかる」を実感できる指導を継続していきたい。

○「授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は、経年経過を見ても年々上昇している。(H.28年度 69.9, H.29年度 77.8, H.30年度 89.1, H.31年度 90.1) また、「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」ことも、昨年度は55ポイントであったところ、今年度は20ポイント以上向上し、全国平均との差も1.3ポイントに迫ることができた。どちらも算数の授業改善が進んでいる成果であると考えられる。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○地域に大きな図書館があるにもかかわらず、放課後や休日の読書時間が少ない。</p> <p>○地域の行事や出来事に関心のある児童が少ない。</p>	<p>○学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） <4.1/7.0></p> <p>○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。 <0.8/3.5></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 <28.1/37.2></p>
【家庭学習の様子】	<p>○自学自習に取り組むことのできる児童が少ない。</p>	<p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 <26.4/33.1></p>
【学校での学習の様子】	<p>○コンピューターなどのICTに接する機会が多くない。</p> <p>○指示待ちではなく、自分自身で課題を考え、取り組むことに苦手意識がある。</p> <p>○自分の意見をまとめ、みんなの前で発表する事に苦手意識がある。</p> <p>○1人ひとりが意見を持ち、クラスの一員としての自覚と安心感を持って生活できている傾向がある。</p>	<p>○5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTなどの経験をしましたか。 <4.1/10.4></p> <p>○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。 <20.7/25.1></p> <p>○あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると思いますか。 <25.6/30.1></p> <p>○学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。 <57.9/45.8></p> <p>○学校に行くのは楽しいと思いますか。 <63.6/53.9></p>

本校の取組

◎これまでの取組

本校では、一昨年度より「自ら考え、伝え合う力の育成」を研究主題として、国語科を中心に研究授業を行い、授業改善、伝え合う活動の工夫・改善に取り組んでいる。昨年度は特に「自分の考えを持つ」ための指導法・手立てを研究することとし、子どもが「考えてみたい」と思える導入の工夫・課題の提示、ペアトークやグループトークなどの取組を行った。今年度は、より主体的・対話的で深い学びにつながる自分の考えに自信をもち、意欲的に伝え合う力の育成をめざした研究に取り組んでいる。

基礎基本の学力の定着に係る取組としては、朝の学習の時間に国語と算数を交互に実施し漢字や計算の他、既習内容の定着を図っている。また、文章に慣れ親しみ、読書をする習慣を身に付けることを目標として、週1日朝の学習で読書の時間を設けている。また、算数科では単元に応じて少人数指導や習熟度別指導を行い、きめ細やかな指導をめざしている。

教師の授業力の向上に向けては、夏季休業中に外部から講師を招き、「子どもが主体的な授業」をめざした授業づくりの研修を行っている。

家庭学習の定着に係る取組としては、「家庭学習チャレンジウィーク」を毎学期1週間実施している。高学年においては、自分で課題を見つけて家庭学習する1週間として取り組んでいる。

生活面に係る取組としては、「あんぜん、あいさつ、あいての気持ち」を生活重点目標とし、委員会活動の取組の柱とするなど、あらゆる場面で意識させている。

今年度の全国学力・学習状況調査では、算数については全国の平均正答率を上回る結果を得ることができた。国語については、全国の平均正答率を上回ることができなかったものの、ほぼ同じ結果を得ることができ、これまでの取組に一定の成果が得られたように感じる。

◎これからの取組

今年度の全国学力・学習状況調査の分析結果を基に本校の課題を改善するために、以下のことに取り組んでいく。

【国語】

「書くこと」の領域では、相手にわかりやすく伝えるように書く力に課題がある。自分の考えを書くことはできるようになってきたが、わかりやすくまとまった文章になっていない。授業の中で書く場面を大切に、「書き方の型」を示したり字数を指定したりして書くなどの工夫を行い、相手にわかりやすく伝えるための文章を書くよう指導していく。また、考えの根拠となる理由を示すようにする。

「読むこと」の領域では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。文章を読む際は作者の考えと自分の考えを比較しながら読むように指導していく。

漢字指導では、新出漢字の学習の際、文をつくることや、間違えやすい漢字を紹介する機会を多く取り入れていく。朝の学習の時間に漢字の復習を行うことで定着を引き続き図っていく。

【算数】

自分の考えを言葉で説明することや、求め方や式の性質の説明をすることに課題がある。日々の授業の中で答えだけでなく、答えにいたる理由を言葉や式を用いてノートなどに自分の考えを書く機会をこれまでよりも多く取り入れる。また、考えを書いた後は見直しをすることを習慣づけたい。そして友だちに発表することでことばの力をつけていく。

また、図形の構成要素の理解に課題がある。具体物を用意し実際に体感する学習を取り入れたい。

どの教科の指導においても、自分の考えを相手にわかりやすく伝える活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びにつながる「書く力」「話す力」「聞く力」のことばの力を育てていく。

【児童質問紙より】

授業時以外で読書をする時間が少ない。読書週間の取組や図書委員会による取組を行い、本に触れる機会をつくる。

教員の研修を行い、ICTを利用した授業を活発に行いたい。